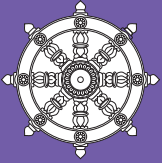


# ZENBUTSU 全日本

No.  
634・  
635



仏暦 2560 年 11・12 月  
[2017 年]

## CONTENTS

### 財団創立 60 周年記念式典・ 第 44 回全日本仏教徒会議福島大会報告

開催概要	2
財団創立 60 周年記念式典	4
記念講演 無常と『あはれ』 玄侑宗久	6
財団創立 60 周年記念式典懇親会	8
第 44 回全日本仏教徒会議福島大会	9
財団創立 60 周年記念式典を終えて (公財) 全日本仏教会理事長 石上智康	11
第 44 回全日本仏教徒会議福島大会を終えて 福島大会実行委員長 石田宏壽	
財団創立 60 周年 特別協賛金 寄付者一覧	12
録事	15
第 1 回花まつりデザイン大賞発表	16



公益財団法人  
**全日本仏教会**  
WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター



追悼と復興を祈念し、  
忘れることなくつなげる

## 財団創立60周年記念式典・ 第44回全日本仏教徒会議福島大会報告

公益財団法人全日本仏教会（以下：本会）は2017（平成29）年10月13日（金）～14日（土）、福島県郡山市内において「財団創立60周年記念式典」をホテルハマツ、「第44回全日本仏教徒会議福島大会」をビッグパレットふくしまにて開催しました。

両日併せ約3,000人の皆様に出席を頂戴し、加盟団体、賛助会員、政界、関係団体、福島県下寺院や檀信徒とともに、仏教がもつ「共に生きる」精神を確認し、過去の災害を忘れることなく、次世代へとつなげていくため、犠牲になられた多くの尊いのちの追悼と被災地復興を祈念しました。

1957（昭和32）年8月23日に財団法人に移行後、2017（平成29）年で60周年を迎える本会は、「仏教文化の宣揚」と「世界平和の進展に寄与」することを目的に、国内外救援活動、人権問題に関する取組み、大蔵経運営事業支援、仏教に関する実態把握調査、海外の仏教者との交流を推進してきました。また、伝統仏教界の連合体として、加盟団体との情報共有をはかり、仏教の社会への発信に努めております。

東日本大震災7回忌だけでなく、阪神・淡路大震災23回忌、平成28年熊本地震1周忌が重なる本年に、仏教を伝えることを目的に掲げている本会が財団創立60周年を迎えることは、大変重要な節目であると認識し、福島県郡山市を会場に「ご縁をかたちに、絆を行動に一私からはじまる」とテーマを設け、平成25年7月2日の準備委員会から様々な協議を経て開催に至りました。

本号では当日の様子をご紹介します。

## 開催概要

### ●財団創立60周年記念式典

- 会場 ホテルハマツ  
(福島県郡山市虎丸町3番18号)
- 開催日 2017(平成29)年10月13日(金)
- 内容 ○財団創立60周年記念式典  
○財団創立60周年記念 被災物故者追悼・  
関係物故者追悼・被災地復興祈念法要  
○記念講演:玄侑宗久師  
(福島県福聚寺住職・芥川賞作家)  
○懇親会
- 参加者 約500人



### ●第44回全日本仏教徒会議福島大会

- 会場 ビッグパレットふくしま  
(福島県郡山市南二丁目52番)
- 開催日 2017(平成29)年10月14日(土)
- 内容 ○復興祈念法要  
○お話と歌 加藤登紀子氏  
○式典(閉会行事)
- 参加者 約2,500人



## ロゴ/テーマ 「ご縁をかたちに、絆を行動に —私からはじまる—」



ご縁をかたちに、絆を行動に  
—私からはじまる—

地域や世界を通じて、様々な人々との縁や絆を結びながら、結んだ私がどのようなことができるかを悩みながら行動していく、そのような想いをこめて、この度のテーマを決定いたしました。

ロゴは、「60」をモチーフに、仏旗の色を用いながら、大きな輪をあしらった滑らかなデザインで「世界・地域」を表現しております。動きのある赤い曲線は「行動」を表し、60周年記念事業のテーマに沿ったロゴになっております。



# 財団創立六十周年記念式典



本会は一九五七（昭和三十二）年八月二十三日に財団法人の認可を受け、二〇一七（平成二十九）年に財団創立六十周年を迎えました。二〇二二（平成二十四）年四月一日に公益財団法人に移行してから初めての周年事業として、社会における諸問題に対し、仏教が果たす役割を再認識しながら、未来に向けた活動を一層展開するための節目として、式典を開催いたしました。

十月十三日に開催した記念式典は、福島県郡山市のホテルハマツを会場に、国内外の僧侶や宗教者が多数参加し、被災した方々の追悼とともに、被災地の復興を祈念しました。参加者は約五百名で主に本会加盟団体、賛助会員、政界、関係団体、福島県仏教会、WFB執行役員などで、東日本大震災だけでなく、阪神・淡路大震災や平成二十八年熊本地震など、大災害を経験された方もいらっしゃいました。また、各界のご来賓にも多数出席いただき、宗派や宗教の枠を超えて六十周年という節目を祝いました。

当日は記念式典、講演、懇親会を執り行いました。記念式典では「財団創立六十周年記念 被災物

故者追悼・関係物故者追悼・被災地復興祈念法要」を厳修しました。東日本大震災七回忌、阪神・淡路大震災二十三回忌、平成二十八年熊本地震一周忌はもとより、各地で発生した災害で犠牲になられた方や、災害に関連してお亡くなりになられた方、また伝統仏教界にご尽力くださった方の追悼をしました。併せて、被災地と被災された方の心の復興を祈念し、様々な災害を忘れず次世代につなげていく決意を新たにしました。

法要の前には、加盟団体の代表者のご来賓に登壇いただき、中西玄禮本会副会長の開会宣言の後、導師である小峰一允本会会長が入場し、法要を厳修しました。真言宗智山派の職衆の皆様のご尽力の

もと、参加者とともに三帰依文を唱和し、小峰会長が表白を奉読しました。表白では、全日本仏教会が「仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与」してきた歴史を振り返り、被災物故者の追悼と早期復興を祈念しました。また、東日本大震災及び原子力発電所事故を「前代未聞の大災害」としたうえで「まことに悲痛慟哭の極み」と述べ、遺族の皆様や現在でも大変困難な生活を余儀なくされている方々へ思いを寄せました。また、全日本仏教会関係物故者を追悼するとともに、震災犠牲者の冥福を祈りました。

法要後、石上智康本会理事長が挨拶をしました。挨拶では、ご来賓をはじめ、関係各位へのご出席や共催である福島県仏教会のご尽力に対して御礼を述べました。また、福島県で財団創立六十周年記念式典を開催した意味を「引き続き、被災地と被災者に寄り添い、その苦しみを自らの苦しみとして、ともに歩んで参りたい」と説明し、

「仏教の本来化に向けて、愚直に行動することが仏教者に求められている」と述べました。結びには伝統仏教界への変わらぬご理解とご協力を呼びかけました。

続いて、来賓を代表して、WFB（世界仏教徒連盟）事務総長のパロップ・タイアリー様、公益財団法人日本宗教連盟理事長の芳村正徳様、郡山市長の品川萬里様からご祝辞をいただきました。記念式典の最後には、篠原法傳本会副会長が出席者に対し謝辞を述べました。謝辞の中で、出席者や準備にご尽力くださった方々に御礼を述べるとともに、自身も被災した二十二年前の阪神・淡路大震災に触れ、本会財団創立四十周年の際は、被災地の兵庫県で開催されたことに思いを馳せました。また、東日本大震災は「人間の生き方を問い直した」と述べ、財団創立六十周年記念事業を「未来につながるもの」と位置づけ「仏教者としての生き方を求め続ける」と締めくくりました。

## 全日本仏教会財団創立六十周年記念法要表白

古聖の言葉に曰く 風朝露を拂い雨夕雲に絶え 白楊秋の霜に悴け 青柏冬の吟に吟ず 空しく墳墓をして人何の処にか去れる とわが全日本仏教会は、財団創立の理念である 仏陀の和の精神を基調とし 時代に即応する活発な全一仏教運動の展開により 仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目的として活動を重ねたり

本日茲に 財団創立六十周年記念式典を福島県に於いて開催するに際し 恭しく身を三密加持の三昧に住し 千に垂んとする僧俗会員と共に集い 去る平成二十三年三月十一日襲来せし 東日本大

震災物故者追悼とその早期復興祈念の法要を修せんとす

かの東日本大震災は二万余の死者と 二千数百の行方不明者と 更には原子力発電所事故による前代未聞の大災害を呼び起し あたり万余の犠牲を蒙るは まことに悲痛慟哭の極みにして 全日本国民による懸命の支援と同苦の思いにもかかわらず 未だその復興の道険し

仍って本日全日本仏教徒の名をもって至心懺悔の志を傾注し 全日本仏教会関係物故者を慰霊するとともに かの震災の犠牲者の冥福と災害の早期復興を祈念す 願わくは大恩教主大聖釈迦牟尼如来並びに諸尊聖衆 吾等が微志を哀愍納受せられ その大慈大悲の本誓をもって 一切衆生に廻らし 所願を成就円満せしめ給わんことを

重ねて乞う

世界平和 万民豊樂 仏法紹隆  
諸人快樂 乃至法界 平等利益

平成二十九年十月十三日

全日本仏教会会長 小峰 一允  
真言宗智山派管長 敬白





## 「無常と『あはれ』」

玄侑宗久

記念式典後、臨済宗妙心寺派福島県福聚寺住職で芥川賞作家の玄侑宗久師による記念講演を実施しました。「無常と『あはれ』」と題した講演では、「忘れよう」と「忘れられない」という気持ちが「矛盾」ではなく「両方」という考え方で同居するのが日本人であると述べ、災害に限らず、様々な経験をされる方の心情を表現しながら、年忌法要や仏壇のまつグリーンケアの効果も紹介されました。講演内容を抜粋してご紹介します。

本日は、財団設立六十周年、誠にめでとうございます。そのような大切な機会を、福島県で七回忌の法要も兼ねて開催していただきましたことに、感謝を申し上げます。本日の記念式典だけではなく、明日は福島大会が開催されますが、会場となるビッグパレットは福島県内では最後に残った一時避難所です。約二千人が寝泊まりした場所ですので、会場をご覧いただきながらも、そのような事実も知っておいてくださればと思います。

### 神社仏閣への義援金

初めに、全日本仏教会（以下…全仏）に対して、非常に感謝していることがあります。それは、全仏が政府等へアプローチしたおかげで、復興庁に対して、コミュニケーション施設の一つである神社仏閣も被害を申し出て、復旧の費用を求めることができるようになったことです。私が復興構想会議の委員になった際、避難所として機能している神社仏閣に復興義援金があるように再三お願いしたものの、「政教分離」が先行し受け入れられなかったことがありました。全仏に努力してもらい、叶ったことに大変感謝しております。

### 同居する矛盾

さて、東日本大震災のような災害を日本は度々経験し、我々の気持ちや文化を作り上げてきたという面は非常に大きいと感じています。例えば、災害で家族の死に遭う際、「忘れないといけない」と「忘れられないし、忘れてはいけない」という、相反する気持ちがうまれますが、これも災害の経験と大きく関係しているのではないのでしょうか。

アメリカの民族学者であるルース・ベネディクトは『菊と刀』の中で「全ての矛盾が、日本人にとって縦糸と横糸になる」と書いています。「不遜であると共に礼儀正しく、頑固であると共に順応性に富み」など様々な例えで、日本人には矛盾が同居しているという見方は、非常に鋭いものを感じます。なぜかと言えば、震災後、「忘れよう。世の中は無常だから、我々も変わろう」という感覚とは別に、「忘れられない」という矛盾する思いが同居していることに気づくからです。

平安時代、一世を風靡した言葉に「あはれ」があります。古語辞典では「しみじみとした情緒」とありますが「うれしい」も「悲しい」も全部「あはれ」なのです。これは「忘れられ

ない」ことを表現しており、「忘れられない」というのが「あはれ」の原理ではないかと考えています。ですので、講題にある「無常と『あはれ』」は反対の気分を表していますが、両方尊重されたのが日本ではないかと思えます。そのような視点で見ると、私たちの周りには様々な反対のことが対になって語られています。

### 「両方」を保つ知恵

例えば、神と仏も対です。「神も仏もあるものか」と言いながら、「神仏



のご加護」と表します。言葉自体も平仮名と漢字を両方使う民族は世界でも稀です。武家と公家も珍しいです。世界では、騎士は貴族の息子です。貴族の家と侍の家は一緒なのですが、日本は全く別であります。これは日本人にとっては、ルース・ベネディクトが言った「矛盾」ではなく「両方」という意味になります。対になっているものがスタンダードという考え方が日本にはあります。西洋人には理解できないかも知れませんが、根底には「忘れよう」「忘れられない」という両方を保たなければならなかった経験が私たちにはあるのではないかと思います。

仏壇にお線香を供えて、亡くなった方に気持ちを捧げ、立ち上げれば忘れて会社に行くことや、年忌法要を勤めることにより、忘れる期間と忘れない期間ができるのは、両方を保つための知恵ではないかと思えます。

### 間で揺れる

このように、両極端の考え方を両方尊重するというのはどうということなのでしょう。天災も同じものが起こったように見えても、毎回違います。そのため、両極端を踏まえ、

その間のちょうどいいところを直感で探すしかないという考え方が、おそらく日本人にあったのではないかと考えます。

鴨長明は『方丈記』で、災害に対してはコンパクトな暮らしがいいと力説するのですが、最後になると「こうでなければならぬ」という思い込み方は、仏教の執着じゃないか」と気づきます。私が考えてなにかをやるのではなく、最終的には阿弥陀様に何おうというのが、震災の多いこの国に生きる鴨長明の結論でした。マニュアルを作って自信を持つということじゃないだろうとなったわけです。

最後に見える鴨長明の心の揺らぎを、禅の方では「風流」といいます。「風流」とは、揺らぐことであります。地震で揺れることではなくて、「こうなんだ」と決めつけず、両極端を踏まえながら、間で揺れることです。変化してやまない周りの環境の中で、風を感じるように揺らぎながら、その都度一番全うな在り方を探すという意味で「風流」と呼んだのではないかと思えます。反対のものが、両方もわれわれの心の中にあるというのは、ある意味で大変な創造性です。そして、二

つに分けたものが、二つではないという考え方が、維摩経に出てきます。「入不二の法門」と言いますけれども、二に分けておいて、しかも二じやないという考え方は仏教の勘所だろうと思えます。

このような考え方は徳川家康公の国造りにも使用されています。西に難波と京という、二つの大きな都がある中で、東に江戸という新しい街を作った際にも、都が二つあるのではなく、京の都と東の京はセットであるという考え方でした。そのシンボルとして富士山を使い、「不二の山」と表現し、御用絵師の狩野探幽に描かせ、日本の山として定着させていきました。

### 両極端を踏まえて

二つの町がありながら、二つに分けるのではなく、対のものとして考える。それをまとめるのが富士山でした。違った考え方があったとしても、片方を排除せず、両方を温存するわけです。

家康公は大した人でありまして、征夷大將軍になり最初の仕事で、浅間神社の改修だそう。その境内には、武田信玄が植えた桜の木がありました。「木を切り捨てましよう

か、燃やしましよつか」と聞かれた家康公は「そのまま置いておけ」と言ったわけです。ここにも、不二という考えが宿っており、そのような考え方が日本をおおいにまとめたと思います。

東日本大震災で様々なことが起こりながら、両極端を踏まえ常に最も現状にふさわしい判断はその場で直観で考えていくという、心の生産性の非常に高い文化を作り上げたのではないかと思います。

### 日本文化の強さ

今後、この国は色々な天災が起こるだろうと思いますし、あるいは人災というものもあるかもしれません。その度に対応していく文化は述べましたが、実は蓄積することもしています。例えば、五重塔という地震で倒れたことがない建造物はスライプリーに活用されています。建設中に大震災が発生しましたが、予定通り進め、竣工したと聞いています。そのような蓄積もありながら、忘れてもいく。それが日本の文化の重層性、強さではないかというふうなことを思った次第です。



記念講演後は、懇親会を催し、工藤裕雅本会副会長の辞により開会しました。続いて小峰会長が挨拶し、

院議員から挨拶をいただきました。その後、ご来賓、加盟団体管長や代表者、宗務総長等に登壇をいただ

六十周年記念式典で自身が会長として法要を厳修したことを「感慨深い」と述べ、震災で犠牲になられた方々へ改めて哀悼の意を表しました。また、本会財団創立四十周年の際に兵庫県で厳修した法要にも真言宗智山派が会長として出仕したことに

も触れ、早期の復興を祈念しました。次に、来賓を代表して、自由民主党仏教議員連盟から片山さつき参議院議員、民進党仏教議員連盟から大島九州男参議

き、多川俊映本会副会長が乾杯の発声をしました。挨拶では「年忌法要や祥月命日があるというのは、忘れないといこととです」と述べ、東日本大震災をはじめとした様々な災害や出来事を風化させない決意を示しました。

懇親会中には、清興としてクラシックライブとひよっとこ踊りが披露されました。クラシックライブは「一般財団法人100万人のクラシックライブ」が演奏し、津波で流された流木を使用した「津波ヴァイオリン」の音色を響かせました。三百年前から伝わる、福島を代表する郷土芸能のひよっとこ踊りは、地元の皆様によるコミカルな動きが、参加者を和ませました。

中締めとして久喜和裕本会事務総長が登壇し、出席者への御礼とともに、関係各位のご尽力のおかげで本日を迎えられたことへの感謝を述べました。また、本会に対する日頃からのご理解とご協力に改めて御礼を伝え「仏教文化の宣揚」と「世界平和の進展に寄与」する本会の目的にむけて、事業を推進する責務を果たしていく旨を示しました。

## 第四十四回全日本仏教徒会議福島大会



一九五三（昭和二十八）年八月に第一回高野山大会が開催された全日本仏教徒会議は、仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目的に、毎回趣向を凝らしながら、仏教徒の立場から社会に対し宣言をまいりました。第四十四回となる今回は、東日本大震災被災地である福島県で開催し、東日本大震災七回忌、阪神・淡路大震災二十三回忌、平成二十八年熊本地震一周忌の節目をともに祈りながら、全国の方に仏教を親しんでもらいました。

十月十四日に開催した第四十四回福島大会は、福島県郡山市のビッグパレットふくしまを会場に、東日本大震災で犠牲になられた方の追悼とともに、被災地の早期復興を祈念しました。参加者は約二五〇名で、福島県下寺院や檀信徒を中心に、国内外の僧侶や宗教の枠を超えた様々な来賓とともに、福島大会を実施しました。

当日は復興祈念法要、加藤登紀子氏のライブ、式典を執り行いました。復興祈念法要は小峰会長を導師に、福島県内の真言宗智山派職衆のもと、厳修しました。法要の祭壇には、復興のシンボルとなっている「三春の滝桜」の幕がかけられ、福島県の葬儀会社である

（株）あおきを中心に荘厳していただきました。法要中には真言宗豊山派僧侶による太鼓の音色の中、参加者とともに般若心経を五遍唱え、僧侶だけでなく、檀信徒や一般参加者とともに犠牲者の追悼と被災地の復興を祈念しました。法要後は主催者として石上理事長と石田宏壽福島大会実行委員長が挨拶をしました。挨拶の中で、出席された皆様への御礼とともに「ご縁をかたちに、絆を行動に」のテーマから「私からはじまる」のテーマを紹介し、福島県で記念式典と大会を開催した意義を述べました。

法要終了後は加藤登紀子氏によるライブを実施しました。「お話しと歌」と題し、代表曲である「百

万本のバラ」や新旧交えた様々な楽曲が披露され、素晴らしい歌声で会場を魅了しました。歌だけでなく東日本大震災に対する思いや自身の活動についても話し、訪れた方々は過去を振り返りながら、未来を見つめる時間を過ごしました。

式典では、冒頭に久喜事務総長と玉木芳宗福島県仏教会会長が挨拶しました。久喜事務総長は地域の過疎化による町や寺院の疲弊がある中で、「檀信徒の皆様がいらっしやっただからこそ本日の大会が成功した」と話し、寺院と檀信徒が手を取り合うことの大切さを伝えました。また、「この大会が新たな一歩になれば大変有難い」と出席した皆様の新たな機縁になることを願いました。玉木会長は福島県で大会が開催できたことへの御礼を述べながら「縁ある方々と手を携えていくのが真の復興」と話し、この大会を機縁に「絆を深めていただければ」と結びました。

その後、伊藤寂俊大会起草委員

長から大会宣言が読み上げられました。宣言では「復旧復興はまだまだ道半ば」でありながら、東日本大震災は「ご縁をかたちにするこの大切さを再認識する時機」となったと述べました。また、仏陀の和の精神を体現しながら、「全てのものに報恩感謝」する生活を始めることを誓いました。



次期開催にむけて挨拶をする清水谷会長

式典の最後には、福島県仏教会

から本会に大会旗が返還され、次期開催地である清水谷善圭島根県仏教会会長に大会旗をお渡ししました。清水谷会長から次期開催地を代表して挨拶をいただき、開催に向けた意欲が語られ、大会は円成しました。

## 大会宣言

本日ここに第四十四回全日本仏教会議福島大会を開催いたしました。本大会は公益財団法人全日本仏教会財団創立六十周年記念事業として、未曾有の大惨事であった東日本大震災の被災地である当地福島に於いて、その七回忌、そして阪神・淡路大震災二十三回忌などの追悼供養、並びに復興祈念を併せて執り行いました。

震災後六年半余りを経過いたしました。復旧復興はまだ道半ば、特に本県においては原発事故による放射能汚染の脅威、風評被害も未だ収まらず、今後の事故処理にも数十年以上の長い年月が予想されております。

しかしながら、この大震災は、私たちが「ご縁をかたちにするこ



との大切さを再認識する時機となり、伝統仏教界が「絆を行動に」移す重要性を改めて領解する機縁となったのではないだろうか。

世界の現況を思う時、貧困や飢餓、格差や不平等、環境やエネルギーの問題、そして平和を脅かす武力や暴力など多難を極めております。我が国においても少子高齢化を始めとして課題が山積し、予測される未来は必ずしも明るいものとはばかりは申せません。

されど、さればこそ、生きとし生けるもの全ての幸福に資するために、私たち仏教徒が「仏陀の和の精神」を体現して行かねばならないと考えます。仏陀の説かれた覚りの真実と慈悲の教えを日常の中に活かし、全てのものに報恩感謝し、「ご縁をかたち」に、絆を行動に「する生活を私たちから始めることを誓い、大会宣言といたします。

平成二十九年十月十四日

第四十四回全日本仏教会議

福島大会

## 財団創立六十周年記念式典を終えて

(公財) 全日本仏教会理事長 石上智康



平素より本会活動にご理解とご協力を頂戴し、誠に有難うございます。

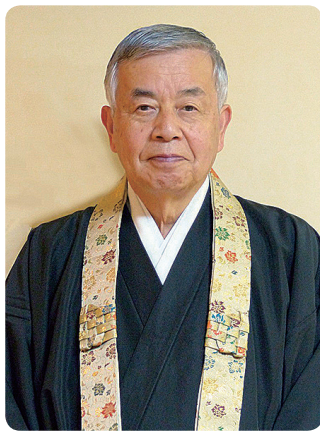
去る十月十二日～十四日に開催いたしました、本会財団創立六十周年記念式典及び第四十四回全日本仏教徒会議福島大会に、多くのご臨席を賜りましたこと、衷心より御礼を申し上げます。加盟団体、賛助会員、政界、大使館、関係団体や福島県下寺院の檀信徒を含め、両日併せ約三〇〇〇名の方のご出席を目の当たりにし、日頃からのご支援に感謝すると同時に、「仏教文化の宣揚」と「世界平和の

進展に寄与」を目的とした諸事業を一層推進するべく、思いを新たにしました次第でございます。

記念式典では、加盟団体の管長 狛下やご来賓の皆様にご登壇いただき、小峰会長導師のもと、財団創立六十周年記念被災物故者の追悼、関係物故者の追悼及び被災地復興祈念法要を執り行いました。言うまでもなく、六十周年という時間は、様々な出来事と多くの皆さまの思いが重なりあった歴史であります。そのような歴史の一端で、理事長の職を拝命していることの重要な責務に、改めて身の引き締まる思いです。伝統仏教界の連合体である本会の役割を果たすべく、事業を継続してまいりますので、今後も皆様のご理解、ご協力を賜れば幸いです。

## 第四十四回全日本仏教徒会議福島大会を終えて

福島大会実行委員長 石田宏壽



全日本仏教会財団創立六十周年記念式典、第四十四回全日本仏教徒会議福島大会は、大会両日（十月十三日・十四日）で約三〇〇〇

名の参加者をお迎えし、これまでの歩みを振り返り、改めて「仏陀の和の精神」を確認いたしました。また、「ご縁をかたちに、絆を行動に―私からはじまる―」テーマのもとに、東日本大震災七回忌、阪神・淡路大震災二十三回忌、熊本震災一周忌の追悼法要を厳修し、「忘れない」をこころに刻み、未来へ向け立ち上がる機縁とする大会として成就することが出来ました。

これもひとえに、全国・海外から参加いただいた方々のご支援によるものであり、主催した私どもにとりましては、諸事業を通して全一仏教運動の展開を模索することができました。そのような意味では、大会がこの福島の地で開催されましたことは大変意義深いことでありました。

福島大会では、平和で穏やかな社会の構築へ向けての大会宣言文を奉読し、大会旗を次の開催地であります島根県仏教会へ手渡すことができました。

最後になりましたが、福島大会の開催にあたりまして、ご指導たまわりました全日本仏教会会長の小峰一允猥下（真言宗智山派管長）をはじめ、役員・加盟団体・賛助会員の方々、何よりも福島県下寺院や檀信徒の皆様へ厚く御礼申し上げます。

財団創立60周年記念事業  
特別協賛金 寄付者一覧

- ・明順寺
- ・東京ブレイストクラブ
- ・精明寺 疋田哲壽
- ・圓正寺 倉澤豊明
- ・小川昌美
- ・南蔵院
- ・正法寺
- ・大圓寺
- ・太福寺 佐久間大道
- ・西福寺 豊原大成
- ・福祥寺 小池陽人
- ・神田寺 友松浩志
- ・浄風寺 別所日山
- ・大本山善光寺大本願 鷹司誓玉
- ・総持寺 小峰立丸
- ・西福寺 菅野秀浩
- ・不破仁
- ・安原晃
- ・王至森寺 瀬川大秀
- ・行徳寺 河西孝典
- ・本昌寺 中村昌之
- ・大聖院 吉田正裕
- ・池田行信
- ・常光寺 大林實温
- ・常磐井慈祥
- ・蓮台寺 佐伯増恒
- ・上沼雅龍
- ・松井宗益
- ・長王寺
- ・唐招提寺 石田智圓
- ・蓮光寺

- ・勸行寺 都築哲信
- ・善立寺 新倉典生
- ・慈眼寺 櫻井英幸
- ・大泉寺 杜多道雄
- ・宗胤寺 児玉重夫
- ・真光寺
- ・華嚴院
- ・金剛城寺 寺河俊禎
- ・龍門寺 河野太通
- ・東覚寺 小宮一雄
- ・敬覚寺
- ・報恩寺 瑞岩眞泰
- ・念法眞教教務総長 桶屋良祐
- ・玉林寺
- ・實相寺 山本文匡
- ・地持院 鮎川博道
- ・善照寺
- ・乘願寺 岩井義俊
- ・三千院
- ・正法寺 栗原正雄
- ・安樂寺 宗澤文良
- ・瑞輪寺 井上日修
- ・東光寺
- ・金剛院 山田一眞
- ・信松院 西村輝成
- ・宝仙寺
- ・西澄寺 西岡知円
- ・圓福寺 木内雍明
- ・誓光寺 村上智真
- ・愛知県仏教会会長 伊藤正導
- ・富光寺 松家宣崇
- ・磯山福正
- ・徳源寺 嶺興嶽
- ・順勝寺
- ・隆光寺 山本弘詔
- ・養安寺

- ・妙法院
- ・天王寺 末廣久美
- ・妙清寺 本多端子
- ・新井寺 松井百合子
- ・東覚寺 岩脇孝子
- ・榎寺 日比野郁皓
- ・長遠寺 河原時子
- ・金蔵寺 梨本三千代
- ・小棹ふみ子税理士事務所
- ・実相寺 野生司祐宏
- ・大乘院
- ・羅漢寺 矢萩宗一
- ・護勢寺 菅原公宇
- ・真如院 大多喜義慶
- ・正善寺
- ・六地藏寺
- ・一般社団法人仙台仏教会
- ・金蔵院
- ・慈宏寺 島和宏
- ・薬師寺 五頭秀峰
- ・大垣市仏教会会長 峰暁信
- ・浄土院 漆間宣隆
- ・興楽寺 荒木正信
- ・金剛寺 志田洋遠
- ・相馬妙見歓喜寺
- ・蓮光寺
- ・快長院 大川観眺
- ・蓮光院
- ・城立寺 吉田英修
- ・退魔寺 若槻繁隆
- ・圓乘院 清水宥聖
- ・高德寺 矢田修眞
- ・高野山京都別院
- ・真福寺
- ・白林寺
- ・仁叟寺 渡辺啓司

- ・寶蓮寺 齋藤昭俊
- ・龍泉寺 佐々木誠宗
- ・極楽寺
- ・岩田文有
- ・高野山眞言宗社会人権局 局長 佐々木基文
- ・長専院
- ・千葉市仏教会
- ・成田山仏教図書館
- ・久昌院 岸祖学
- ・東海学園大学
- ・法龍寺
- ・曹洞宗北海道第三宗務所
- ・雪丸令敏
- ・眞宗大谷派函館別院
- ・浄土宗西山禅林寺派 総本山永観堂禅林寺
- ・天徳院
- ・慈恩寺
- ・眞言宗豊山派奈良県宗務支所 佐々木義章
- ・東泉寺
- ・正福院 加久保範祐
- ・浄谷寺
- ・密蔵院 田中定宏
- ・城官寺
- ・金剛院 山田一眞
- ・善徳寺
- ・神藏寺
- ・聖徳寺
- ・曹洞宗北海道第二宗務所
- ・光輪寺
- ・十念寺 田中文雄
- ・全日本宗教用具協同組合
- ・別府良孝
- ・薬師寺 柿本大真

- ・廬山寺
- ・薬王寺
- ・一般社団法人宗務ネットワーク
- ・佑想庵代表理事 中山戒仁
- ・本龍寺
- ・宝勝院 林大晃
- ・長崎県葬祭業協同組合
- ・東栄寺
- ・光真寺
- ・藤井大俊
- ・普門院
- ・大聖寺 佐々木龍快
- ・光明寺 石上智康
- ・立石泰教
- ・曹洞宗島根県第二宗務所
- ・割烹魚藤
- ・無量寺 笹岡弘隆
- ・常願寺
- ・日本仏教鑽仰会理事長 中山秀成
- ・植田勝博
- ・金剛福寺 高見寛康
- ・廣澤寺 小笠原隆元
- ・田嶋要
- ・西光院 坂本孝温
- ・浄弘寺 下川弘暎
- ・正泉寺 野澤隆幸
- ・上品蓮臺寺 高井隆成
- ・円覚寺
- ・大法寺 岡部光謙
- ・下田正弘
- ・成田山大聖寺 宮本照剛
- ・中村啓識
- ・一般社団法人日本石材産業協会
- ・多聞寺
- ・龍眼寺 市原孝信
- ・隆照寺 小柴隆幸

- ・帯解寺
- ・唱題寺 柿崎日栄
- ・金光寺
- ・本願寺広島別院
- ・寂光院 松平實胤
- ・錫杖寺 江連俊裕
- ・駒澤大学附属苫小牧高等学校
- ・校長 笹嶋清治
- ・徳成寺
- ・光源寺
- ・宗教法人臨濟宗日本佛光山
- ・身延山久遠寺
- ・前田定戒
- ・安養院 浦田快暢
- ・道樹寺
- ・浄国寺 荻野昭裕
- ・大乘淑徳学園理事長 長谷川匡俊
- ・法泉寺
- ・曹洞宗宮城県宗務所
- ・所長 小野崎秀通
- ・松山公顯
- ・大泉寺
- ・善養寺 名取玄喜
- ・大蓮寺 望月義仁
- ・秋生寺 齊藤友厳
- ・西山浄土宗
- ・常教寺
- ・西成区仏教会
- ・大福寺
- ・大崎順敬
- ・三学院 倉持秀裕
- ・西福寺 榎原清了
- ・最明寺 千田亮澄
- ・高幡不動尊金剛寺
- ・妙覚寺 高橋俊隆
- ・持宝院 伊東永人

- ・雲門寺 古溪理哉
- ・雲上寺
- ・円融寺
- ・小山展弘
- ・乘蓮寺
- ・自性院 井上康彦
- ・龍泉寺
- ・赤松広隆
- ・鳩谷・別城・山浦法律事務所
- ・別城信太郎
- ・吹田市仏教会
- ・焼津市仏教会 会長 長尾明孝
- ・曹洞宗北海道第一宗務所
- ・所長 中川紀雄
- ・息障院 村田栄行
- ・妙高寺
- ・大本山川崎大師平間寺
- ・大本山成田山新勝寺
- ・貫首 橋本照稔
- ・大本山高尾山薬王院
- ・徳正寺 采澤良浩
- ・吉祥院 曾我龍慶
- ・光秀寺 関根隆紀
- ・聖音寺
- ・善光寺
- ・無量寿山 光明寺
- ・樹徳高等学校
- ・香川県佛教会会長 大西栄光
- ・玉林寺 長谷琢堂
- ・天台宗陸奥教区宗務所
- ・弘誓山 観音寺
- ・一般社団法人仏教検定協会
- ・西蔵寺 横山大哲
- ・法玄寺 和田幸信
- ・時宗第八教区
- ・信濃国分寺 塩入法道

- ・本山大坊本行寺住職 中野日演
- ・鶴見大学附属中学校・高等学校
- ・常福寺
- ・西福寺
- ・河野亮仙
- ・観音寺 小島恵真
- ・妙安寺 吉田文雄
- ・学校法人芝学園
- ・天性寺
- ・東京都葬祭業協同組合
- ・東本願寺真宗会館
- ・荻寺 光明院
- ・善龍寺
- ・金剛寺 巖清行
- ・門真市仏教会
- ・曹洞宗茨城県宗務所
- ・所長 大山定隆
- ・禅林寺 中西玄禮
- ・法相宗 大本山興福寺
- ・学校法人大谷学園
- ・全日本葬祭業協同組合連合会
- ・壽命院 大護毅
- ・株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション
- ・延暦寺
- ・長命寺
- ・中央寺
- ・黄檗宗
- ・和泉市仏教会
- ・福王寺 田中孝教
- ・長谷川法律事務所 長谷川正浩
- ・最勝院 千野法人
- ・岸道子
- ・浄念寺
- ・宝光寺 寺崎敬道
- ・金谷仏教会会長 佐藤宣雄

- ・増徳院
- ・有限会社新宿アカウンティング  
オフィス取締役 長谷川正浩
- ・本願寺鹿尾島別院
- ・長明寺 木内隆志
- ・桑澤宥康
- ・株式会社縁
- ・高德院
- ・株式会社澤茂樹事務所
- ・妙興寺 岡田真水
- ・千光寺
- ・三念寺
- ・浄幽寺 山崎秀晃
- ・葦輪顕量
- ・秀明寺 磯定憲
- ・浄土宗西山深草派
- ・渡邊寶陽
- ・清水寺 青木親純
- ・株式会社中外日報社
- ・大和証券株式会社
- ・大和証券株式会社郡山支店
- ・学校法人武蔵野大学理事長  
石上智康
- ・公益財団法人全国青少年教化  
協議会
- ・圓満寺 西郊良光
- ・部落解放同盟中央本部
- ・竹林寺
- ・赤穂知道
- ・三寶寺
- ・大本山清浄華院 眞野龍海
- ・浄土真宗本願寺派築地本願寺
- ・法華宗（眞門流）
- ・菊池法純
- ・銀座総合法律事務所 加毛修
- ・本覺寺 守長尚文

- ・春光院 川上史朗
  - ・学校法人筑紫女学園理事長  
 山眞乘
  - ・寶性寺 上田浩憲
  - ・本迹院 工藤裕雅
  - ・杉並仏教会
  - ・佛法寺
  - ・玄向寺 荻須眞教
  - ・浄土宗西山禅林寺派
  - ・眞浄寺 三好慶祐
  - ・山口展弘
  - ・圓満寺 篠原法傳
  - ・延命寺 町田法博
  - ・株式会社リーガルイヤルホテル東京  
 小山智恵
  - ・本願寺津村別院
  - ・公益社団法人日本ネパール協会
  - ・静岡県仏教会
  - ・重蓮寺 関崎幸孝
  - ・浅沼・杉浦法律事務所
  - ・妙高寺 吉橋勝寛
  - ・豊田元彦
  - ・良恩寺
  - ・成田山延命院
  - ・本光寺
  - ・匿名希望89名
- 平成29年11月17日現在  
（時系列順・敬称略）

### 当日御祝金一覧

- ・浄土宗
- ・浄土真宗本願寺派
- ・浄土真宗本願寺派築地本願寺
- ・浄土真宗本願寺派東京教区教務所

- ・曹洞宗務庁
- ・曹洞宗神奈川県第二宗務所
- ・大本山永平寺
- ・大本山総持寺
- ・天台宗
- ・天台眞盛宗
- ・日蓮宗
- ・全国日蓮宗青年会
- ・眞言宗智山派宗務庁
- ・総本山智積院眞言宗智山派宗務庁
- ・智山雅楽会
- ・眞宗大谷派
- ・高野山眞言宗総本山金剛峯寺
- ・須磨寺
- ・浅草寺
- ・法華宗（本門流）
- ・全日本仏教青年会
- ・本迹院
- ・兵庫県仏教会
- ・法要寺
- ・東京都仏教連合会
- ・一般財団法人埼玉県佛教会
- ・一般社団法人仙台仏教会
- ・栃木県仏教会
- ・大阪府佛教会
- ・愛知県仏教会
- ・島根県仏教会
- ・福岡県仏教連合会
- ・地藏院
- ・白石刈田仏教会
- ・青蓮院
- ・新豊院
- ・全日本婦人連盟 末廣久美
- ・妙清寺 本多端子
- ・全日本葬祭業協同組合連合会
- ・一般社団法人全日本冠婚葬祭

- 互助協会
- ・一般社団法人仏教情報センター
- ・一般社団法人PRAY for  
 (ONE)
- ・公益財団法人仏教伝道協会
- ・公益財団法人日本仏教保育協会
- ・公益財団法人全国青少年教化  
 協議会
- ・東京ブディストクラブ
- ・部落解放同盟中央本部
- ・公益財団法人国際仏教興隆協会
- ・公益財団法人新日本宗教団体  
 連合会
- ・一般社団法人ジャパンフューネラル  
 フラワー協会
- ・社団法人世界連邦日本仏教徒  
 協議会
- ・全眞言宗青年連盟
- ・公益財団法人日本宗教連盟
- ・神社本庁
- ・教派神道連合会
- ・妙智會教団法嗣 宮本恵司
- ・九品院
- ・玄向寺
- ・大乘院
- ・広度寺
- ・福嚴寺
- ・西蔵寺
- ・善立寺 新倉典生
- ・妙義教会
- ・常居寺
- ・福聚寺
- ・宝泉寺
- ・實相院
- ・妙壽寺
- ・金峯山青年僧の会

# 事務総局録事

## 9月(1~30日)

- 1日 ▶ 関東大震災・都内戦災遭難者秋季慰霊大法要出席  
東京・東京都慰霊堂
- ▶ 民進党臨時大会出席 東京・東京プリンスホテル
- ▶ 曹洞宗村上氏訪問 福島・醫王寺
- 2日 ▶ 第7回福島実行委員会出席 福島・郡山ビューホテル
- 4日 ▶ 東大寺晋山祝賀会出席 京都・ホテルグランヴィア京都
- ▶ 静岡県仏教会西部地区研修会出席  
静岡・浜松市福祉交流センター
- ▶ 全日本仏教青年会理事長倉島氏就任祝賀会出席  
東京・ザ・プリンス パークタワー東京
- 5日 ▶ 第6回財団創立60周年記念式典典部会開催  
東京・明照会館会議室
- ▶ (株)ディー・エイ・ティ・コーポレーション北川氏来局  
事務総局
- 6日 ▶ 岸信夫事務所訪問 東京・衆議院第1議員会館
- ▶ 浄土宗小林氏訪問 東京・妙定院
- 7日 ▶ (一社)PRAY for (ONE) 来局 事務総局
- ▶ 第32期第5回総務財政審議会開催 事務総局
- 8日 ▶ 衆議院議員青柳陽一郎秘書葛西氏来局 事務総局
- ▶ 三菱モルガン・スタンレー証券(株)石井氏他来局 事務総局
- ▶ 近畿日本ツーリスト(株)子安氏来局 事務総局
- ▶ 曹洞宗服部氏来局 事務総局
- ▶ 松榮堂伊藤氏来局 事務総局
- ▶ FTエナジー(株)奥田氏来局 事務総局
- ▶ キャノンマーケティングジャパン(株)深谷氏来局 事務総局
- 9日 ▶ 金閣寺音舞台出席 京都・金閣寺
- 11日 ▶ ホテルハマツ訪問 福島・ホテルハマツ
- 12日 ▶ 局内会議 事務総局
- ▶ キャノンマーケティングジャパン(株)深谷氏他来局  
事務総局
- ▶ (株)ディー・エイ・ティ・コーポレーション北川氏来局  
事務総局
- ▶ 松竹株式会社歌舞伎座田村氏来局 事務総局
- ▶ 第8回WFB部会開催 事務総局
- 13日 ▶ 第26回ヒューマンライツセミナー出席  
東京・タワーホール船堀
- 14日 ▶ JTB東北金子氏他来局 事務総局
- ▶ 福岡県仏教連合会平兮氏訪問 福岡・乳峰寺
- ▶ 大和証券(株)佐藤氏来局 事務総局
- ▶ 臨済宗建長寺派石澤宗務総長訪問 神奈川・建長寺
- ▶ 真宗大谷派石井氏他来局 事務総局
- ▶ 浄土真宗本願寺派東森氏来局 事務総局
- 15日 ▶ 聖観音宗守山氏訪問 東京・浅草寺
- ▶ 宗教法制研究会主催「第100回公開シンポジウム」出席  
東京・青山学院大学渋谷キャンパス
- 18日 ▶ 浄土真宗本願寺派主催「千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」出席  
東京・千鳥ヶ淵戦没者墓苑
- ▶ 曹洞宗山本氏来局 事務総局
- 19日 ▶ 局内会議 事務総局
- ▶ (有)ヴォイス・プロ宮本氏他来局 事務総局
- ▶ 曹洞宗山本氏訪問 東京・曹洞宗宗務庁
- ▶ 曹洞宗服部氏訪問 東京・曹洞宗宗務庁
- 20日 ▶ ネパール大使レセプション出席 東京・ホテルオークラ東京
- 21日 ▶ 日本郵便(株)川崎氏来局 事務総局
- ▶ (公財)日本宗教連盟第4回幹事会出席 事務総局
- 22日 ▶ (一財)100万人のクラシックライブ西原氏他来局 事務総局
- ▶ キャノンマーケティングジャパン(株)深谷氏他来局  
事務総局
- 25日 ▶ 臨済宗妙心寺派において本会事業説明  
京都・臨済宗妙心寺派宗務本所
- 26日 ▶ (株)若林工芸舎村田氏他来局 事務総局

- ▶ 厚生労働省年金局濱村氏来局 事務総局
- ▶ ホテルハマツ添田氏訪問 福島・ホテルハマツ
- 27日 ▶ 大分県東京事務所小野氏訪問  
東京・大分県大分東京事務所
- 28日 ▶ (株)産通木村氏山田氏来局 事務総局
- ▶ 朝日ビジネスソリューション(株)渡辺氏来局 事務総局
- ▶ (一社)仏教情報センター岩田氏来局 事務総局
- 30日 ▶ 宗教者災害支援連絡会第31回情報交換会参加  
新宿・常圓寺

## 10月(1~31日)

- 2日 ▶ 平成29年度宗教法人実務研修会出席  
徳島・あわぎんホール
- 3日 ▶ 華嚴宗狭川普文管長訪問 奈良・東大寺
- ▶ 小川昌美氏来局 事務総局
- ▶ 和宗森田俊朗管長訪問 大阪・四天王寺
- 4日 ▶ 第2回記念誌編集部会開催 事務総局
- ▶ 局内会議 事務総局
- ▶ 曹洞宗山本氏訪問 曹洞宗宗務庁
- ▶ 仏教タイムズ棚井氏来局 事務総局
- ▶ 中華民国106年国慶レセプション出席 東京・帝国ホテル
- 6日 ▶ 第51回仏教伝道文化賞贈呈式出席  
東京・仏教伝道センタービル
- ▶ 第7回財団創立60周年記念式典部会開催  
東京・明照会館4階会議室
- 10日 ▶ 島根県仏教会清水谷氏来局 事務総局
- 11日 ▶ 局内会議 事務総局
- 14日 ▶ 中外日報創刊120年記念講演会及び祝賀会出席  
京都・リーガロイヤルホテル京都
- 16日 ▶ (一社)共同通信社小野氏訪問 東京・(一社)共同通信社
- 18日 ▶ 第1回花まつりポスター・絵はがきデザイン審査会開催  
事務総局
- 18日 ▶ 日本テンプルヴァン(株)井上氏来局 事務総局
- 19日 ▶ 平成29年度宗教法人実務研修会出席  
福井・福井市にぎわい交流施設
- 19日 ▶ メールカスタマーセンター(株)小澤氏来局 事務総局
- ▶ 朝日ビジネスソリューション(株)木村氏来局 事務総局
- 20日 ▶ みずほ証券(株)石飛氏来局 事務総局
- ▶ 浄土真宗本願寺派本願寺国際センター足田氏訪問  
京都・浄土真宗本願寺派本願寺国際センター
- ▶ 「日本宗教代表者会議」第3回常任委員会・運営委員会合同  
会議出席 京都・ハイアットリージェンシー京都
- 22日 ▶ 東大寺主催「東日本大震災物故者慰霊と被災地復興への  
祈り」出席 福島・郡山女子大学建学記念講堂
- 24日 ▶ 長野県仏教会理事会において本会事業説明  
長野・上諏訪温泉 しんゆ
- ▶ 公益法人協会特別セミナー出席  
東京・中央大学駿河台記念館
- 25日 ▶ 長野県仏教徒諏訪大会出席 長野・茅野市民館
- ▶ (一財)埼玉県佛教会において本会事業説明  
埼玉・川口総合文化センター
- ▶ 第39回埼玉県佛教徒大会出席
- 26日 ▶ 局内会議 事務総局
- 27日 ▶ 大陸旅遊遠藤氏来局
- 30日 ▶ 2017年度部落解放・人権政策確立要求第2次中央集会出现  
東京・星陵会館
- ▶ 大和証券(株)佐藤氏来局 事務総局
- 31日 ▶ 妙法院門跡第52世晋山式・祝宴出席  
京都・ウェスティン都ホテル京都
- ▶ 朝日ビジネスソリューション(株)渡辺氏他来局 事務総局
- ▶ 浄土宗杉山氏来局 事務総局
- ▶ 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)金子氏他来局  
事務総局



# 第1回 花まつり

## ポスター・絵はがきデザイン大賞発表!



今回の「第1回花まつりポスター・絵はがきデザイン募集」に多数のご応募をいただき、ありがとうございました。  
ポスター作品16点・絵はがき作品67点、合計83点の中から、審査会において大賞に選ばれた作品を発表いたします。



ポスター大賞作品

「花まつり」<sup>ひので ゆき</sup> 梶 佑季さん



絵はがき大賞作品

「微笑みの華」<sup>しばた</sup> 柴田 ひろみさん



妊娠中にデザイン募集の話を知り、応募させていただき、出産と同時期に大賞のご連絡をいただき、おめでたいことが二つ同時にやってきました。

連絡をいただいたときは、まさか大賞をいただけると思っていなかったもので、驚きと喜びでいっぱいでした。

イラストをきっかけに、大人も子供も、一人でも多くの方が花まつりに興味を持ってくれたら嬉しいです。

(梶 佑季さん)



絵はがきの大賞を受賞したと聞いた時は信じられませんでした。大変嬉しく思いました。私自身、「花まつり」に足を運んだのは最近のことで、お釈迦様の誕生日のことも良く知りませんでしたが、友人に誘われ「花まつり」に参加し、良い体験ができました。

その時、デザイン募集のチラシを貰い、軽い気持ちで応募しましたが、あの時の一歩が今の喜びに繋がりました。私の描いた絵はがきで、笑顔になったり、気持ちが安らいだり、誰かに気持ちを伝えるきっかけになれば幸いです。

また、私が友人に誘われ「花まつり」に参加したように、絵はがきを手にした人達に笑顔と「花まつり」が広まっていくことを願っています。

(柴田 ひろみさん)

平成30（2018）年に頒布する花まつりポスター・絵はがきは、大賞作品をもとに作成いたします。  
お釈迦さまのお誕生日である「花まつり」を一緒にお祝いし、盛り上げてまいりましょう！

2017年12月1日発行  
11・12月号  
第634・635号



発行人 久喜 和裕  
発行所 公益財団法人 全日本仏教会  
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階 TEL 03(3437)9275 FAX 03(3437)3260  
印刷所 ティケイ ヘンデル アート